

**実際の市民企画は
こうして行われた！**

7月初めに「いっしょに生涯学習しませんか。企画ボランティアスタッフ大募集！」と広報PRをしたところ、8人（男女各4人）の方の応募がありました。記念すべき第1回企画委員会が開かれたのは7月29日(木)午後のこと。皆、同じ石狩市民であるとは

いえ、この日が初めての顔合わせでした。「ほかの7人はどんな人たちなんだろう？」。そんな中、自己紹介が行われ、スタッフに応募した動機や職業、ボランティアなどの活動経験のほか、「学びを通じて生きがいを実感したい」とか、「今まで学んできたことを生かしたい」、「この機会にまちづくりのために貢献したい」など、これからの活動にあたっての抱負も

受講者の対象、ターゲットはどうする？

講義ばかりでなく
現場見学や体験も
できるものにしては？

講師は外部から
著名人を呼びだけでなく、
市民の中から各分野で
研究や実践、経営を
している方に、

ボランティアとして
協力してもらえるように
お願いしたらどうか？

参加者同士で
意見交換ができる
場を設けては？



市民が、市民のための生涯学習講座づくりを目指して集まった企画委員会

期待と希望、 そして新たな挑戦

語られました。そして、いよいよ本題である「テーマ、プログラム、そして参加する市民が何を学べる講座にするのか」。いわゆる企画についての話し合いです。市民企画ならではの講座にしようという点では意見が一致しましたが、具体的なテーマや内容を決めるにあたっては、各スタッフの興味や関心がさまざまであることから、この場で結論を急がずに、次の会議までの宿題として各スタッフがレポートにまとめてくることになりました。

実際に第2回企画委員会でスタッフの面々から出てきたアイデアは次のとおり。
・ 高齢者福祉や除雪、交通、防災について
・ パークゴルフやダンス等（レクリエーション、スポーツ）を取り入れて、市民の健康づくりについて考えよう

・ 歴史や自然、産業、教育等のあらゆる分野から、今の「いしかり」をウォッチング
・ 行政活動への市民参加のあり方について考えよう

このほか10本以上のテーマが提案され、これ以後も数回の企画

委員会が開かれました。その中で実際に市民講座の開講に向けて決まったことは、

・ 「生涯学習講座〜市民企画編〜」のシリーズテーマを「いしかり学のススム」と命名

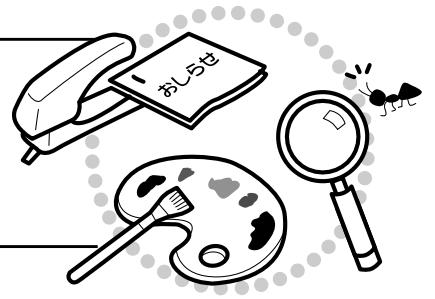
・ いしかりのあらゆる環境をさまざまな視点や角度から学んで、参加者がより良い市民生活の一助となることを実感できる講座を目指す

ということ。

これまで、各スタッフによる熱心な議論が交わされてきましたが、今年度に開講予定の3講座をどのテーマにするのか、テーマの絞り込みに苦悩するなど、各スタッフにとつて解決しなければならぬことはまだまだたくさんあります。しかしながら、このプロセスがスタッフたちにとつて「新たな学び」の喜びになっていることも事実です。

**ただいま
企画中！**

11月から来年2月にかけて、「介護」「スポーツと健康」「市民参加のまちづくり」をテーマにした講座を開講する予定です。ただいまその企画中です。詳細の開催案内（受講者募集）については、市広報やチラシなどを通じて、11月から随時ご案内します。



「新たな学び」の第一歩を踏み出しはじめました…

市民が企画した講座 「いしかり学のススメ」

市民による「手づくり講座」とは？ 今回は、7月からスタートした石狩で初めての試みとなる活動にクローズアップします。

心の豊かさを求めるついき

世の中が目まぐるしく変化し、市民のライフスタイルやニーズ、価値観が多様化していると言われます。そうした動きの中で、私たちは今、あらゆるメディアで毎日のように行政や民間事業者、NPO法人、ボランティア団体などが主催する講演会やセミナー、教室、通信講座の募集記事を目にするようになりました。

その内容も実に多種多彩！パソコンや書道、料理、語学など生活に役立つ知識や技術、教養を深めるものもあれば、芸術文化、歴史、文学、スポーツ、健康づくりなど日常的に学べるもの、あるいは専門的知識の習得や資格取得を目指すものまで、テーマ（ジャンル）

やプログラムもさまざまです。

これは、「高度経済成長」期から「バブル経済」期にかけて続いた「心の豊かさ」を求める時代が終わり、それを告げ、代わりに「心の豊かさ（生きがい）」を求める時代になりつつあるからではないでしょうか。

キーワードは「生涯学習」

こうした時代を背景に存在するキーワードの一つに、「生涯学習」があります。

この用語が世間一般に使われるようになったのは、国の法律である生涯学習振興法が制定された1990年のころから。全国の各市町村では、年々高まる市民の学習意欲と、多様な高度化する学習ニーズに対応し、「生涯学習社

会（いつでも、どこでも、誰もが、自由に、学習成果を評価できる社会）」の実現に向けた体制整備を図ってきました。

石狩市においても、教育委員会主催の「コミュニケーション講座」や、保健福祉部主催による高齢者や乳幼児を持つ親（保護者）を対象にした、健康や子育てがテーマの各種教室、市職員が講師となつて、まちの施策や制度などを理解してもらおうための「まちづくり出前講座」など、各担当課において市民の学びの場を提供しています。

「協働」から始まる 新たな一歩

市民の学習意欲が急速に高まる中で、新たな生涯学習のカタチも

見えてきました。それは、市民ボランティアと市（役所）の「協働」から生まれるものです。

日々の生活から生まれる疑問や課題をテーマに市民が「手づくり講座」を開く。こうした試みは、もちろん市（教育委員会）にとっても初めてのこと。具体的には、市民が単なる受講者としてだけでなく、講座のテーマを選ぶことなく、講座の準備、受講者募集の広報、資料作り、そして開催当日の運営に至るまで講座の企画者として参加します。つまり、「講座」という事業の裏側を知ること、学習テーマにより深く関心を持ち、「新たな学び」の発見があるはず。それが「生涯学習講座」市民企画編」が目指すところなのです。